

女子学生の生活態度・意識の推移 (第4報)

野村 晶子

目的; 「女子学生の生活態度・意識について」の調査・研究に着手したのは、16年前の1985年(本学女子短期大学部「家政研究第16号、1985。’)であった。その間、1986年、日本教育心理学会第28回総会発表論文集(1986。’)1993年、日本性格心理学会第2回大会発表論文集、(1993。’)そして1999年、本学女子短期大学部研究紀要第43集(1999。’)にも報告してきた。約8ヶ年を1区切りとし、前期(1993年迄)、後期(2001年迄)の推移を把握し、2001年の結果

と比較検討する。

方法;

- (1)調査対象は、女子短大生(1年次)108名。
- (2)調査期間は、2001年6月。
- (3)質問紙法に依る。(4)調査項目は、Ⅰ.人生観関係、Ⅱ.自己関係、Ⅲ.友人・生活関係、Ⅳ.家庭関係、Ⅴ.学校関係、Ⅵ.国家・社会生活関係、Ⅶ.未来関係、Ⅷ.異性関係、の8項目を設定した。

(Table 1) Ⅰ. 人生観関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)人生で何を求めていますか。				
他人との誠実や愛	61 (61)	128 (21.1)	101 (68.7)	70 (22)
お金や地位	24 (24)	55 (9.0)	33 (13.0)	24 (9)
やりがいのある仕事	44 (44)	98 (16.1)	43 (29.3)	40 (12)
信仰による救い	2 (2)	28 (4.6)	0 (0)	2 (1)
円満な家庭の建設	52 (52)	81 (13.3)	102 (69.4)	52 (16)
国家・社会への献身	0 (0)	4 (0.7)	2 (1.4)	2 (1)
趣味に合った生活	50 (50)	83 (13.7)	43 (29.3)	33 (10)
幸福な結婚	54 (54)	114 (18.8)	103 (70.1)	56 (17)
その他	4 (4)	11 (1.8)	0 (0)	5 (2)
何を求めてよいか分からない	2 (2)	0 (0)	1 (0.7)	5 (2)
(2)宗教を信仰しますか				
信仰による救いを求めている	9 (9)	16 (7.8)	23 (15.6)	16 (15)
神や仏などは信じられない	3 (3)	9 (4.4)	1 (0.7)	4 (4)
信仰に関心がない	88 (88)	176 (85.9)	122 (83.0)	88 (81)
(3)道に迷っている人を見たらどうしますか				
声をかけてみる	10 (10)	31 (15.1)	25 (17.0)	20 (19)
たずねられれば教える	88 (88)	174 (84.9)	122 (83.0)	85 (79)
気にかけない	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
(4)人間の本性は本来善か悪かいずれだと思いますか				
善である	23 (23)	75 (36.6)	54 (36.7)	32 (28)
悪である	23 (23)	27 (13.2)	17 (11.6)	12 (11)
わからない	21 (21)	28 (13.7)	10 (6.8)	31 (29)
いずれでもない	34 (34)	0 (0)	0 (0)	25 (23)
(5)「頼れるのは自分だけだ」という意見に賛成ですか				
はい	36 (36)	66 (32.2)	57 (38.8)	23 (21)
いいえ	64 (64)	137 (66.8)	90 (61.2)	85 (79)
(6)「今の社会では、あくせくしないで、のんびりするのが大切だ」という意見に賛成ですか				
はい	80 (80)	151 (73.7)	84 (57.1)	14 (64)
いいえ	20 (20)	52 (25.4)	62 (42.2)	6 (36)
(7)「お金は貯金するより使った方がよい」				
はい	13 (13)	56 (27.3)	30 (20.4)	18 (17)
いいえ	65 (65)	100 (48.8)	83 (56.5)	77 (71)
わからない	22 (22)	46 (22.4)	34 (23.1)	13 (12)

結果及び考察；

I. 人生観関係 (Table 1) では、(1)「人生では何を求めていますか」に対しては、他人との誠実や愛22パーセントで第1位を示し、次いで、幸福な結婚17パーセント。円満な家庭の建設16パーセントで第3位を示し、やりがいのある仕事は12パーセントで、1992年のデータとの順位の大差はみられなかった。又、1986年のデータでは1位、幸福な結婚。次いで他人との誠実や愛。で、わずかではあるが、パーセンテージは逆転している。第3位、やりがいのある仕事であった。信仰による救い、国家・社会への献身は、0~2パーセント、次いで少ないものとしては、何を求めてよいか分からない、その他についても0~4パーセントと低い。(2)「宗教を信傾しますか」に対しては、信仰に関心がない81パーセントで1位、信仰による救いを求めている、15パーセントであった。これは、1986年のデータ83パーセントの信仰に関心がない。よりわずかにパーセンテージ(2パーセント)下り、又、1992年よりも約5パーセント下っている。これは21世紀を迎え、混沌とした社会への不安感から生じた変化を暗示するものか、この点については研究を深めなければならない。(3)「道に迷っている人を見たらどうしますか」に対し、たずねられたら教える79パーセントであるが、このデータは、1986年より4パーセント減、1992年のデータより6パーセント減であり、声をかけてみる19パーセント、1986年より2パーセント増、1992年より約4パーセント増で、他人への親切心の増加の傾向は頼もしいかぎりである。(4)「人間の本性は本来善か悪か」に対し、1位、わからない29パーセント、2位、善である28パーセントと回答している。1992年では、善である37パーセント、わからない14パーセントであり、21世紀では、回答は1位、2位は、逆転し、5パーセントの増加がみられた。

これは、女子学生の、人間の本性については困惑の状態を示しているようである。又、1986年と比較すると、1986年での、わからないとの回答は、7パーセントに対し、22パーセントの増加の現象をみたことになる。これは、年を加えるに従って、7パーセント、14パーセント、29パーセントと急増し、人心の希薄さへと急変の結果をみたことになる。(5)「頼れるものは自分だけだに対して賛成か」に対し、いいえ79パーセントで、1992年のデータ67パーセントより12パーセント増加し、又、1986年のデータ61パーセントより17パーセントの増加をみた。即ち、年々「頼れるものは自分だけだ」という、自己信性に欠ける傾向が顕になった。(6)「今の社会では、あくせくしないで、のんびりするのが大切だという意見に賛成ですか」に対し、はい、64パーセントであった。1992年では、はいは、74パーセント、で21世紀では、10パーセント減であった。

(7)「お金は貯金するより使った方がよいに賛成ですか」に対し、いいえ71パーセントで、1992年では49パーセント、1986年では、57パーセントで、未来に対する経済的不安感の一面もみられた。

II. 自己関係 (Table 2) (1)「自分の性格等について満足していますか」に対し、やや満足44パーセント。やや不満36パーセントであった。1992年やや不満49パーセント、やや満足39パーセント。1986年やや不満48パーセント、やや満足34パーセント。と21世紀では、わずかではあるが満足度は増加している。(2)「自分の性格について」は、やや内向性34パーセント、次いで普通31パーセントであり、年毎の推移は大きくない。(3)「自分の話し好きをどのように考えるか」に対し、普通38パーセント、やや話し好き31パーセント、非常に話し好き24パーセントと上位にある。年による大差はないとみてよいであろう。(4)「自分の意志は強いと思うか」に対し、普通41パーセント、

やや強い32パーセントで、次いで、やや弱い16パーセントであったが、やや弱い1992年26パーセント、1986年の22パーセントのデータより、激減している。

(5)「自分の人柄に魅力があると思いますか」に対し、普通38パーセント、次いで、やや魅力が足りない27パーセントであった。1992年では、普通54パーセント、やや魅力が足りない22パーセント、1986年では普通53パーセント、やや魅力が足りない25パーセントであり、魅力的というイメージは下降している。

(6)「人間として他の人と比較してどのように思いますか」に対して、普通63パーセント、やや劣っている24パーセントと回答し、いずれの年も、普通(中庸でありたい)回答を得た。

(7)「進学、就職、結婚、等、重要な問題は誰に相談しますか」に対し、友達62パーセント、次いで、両親41パーセント、先生27パーセントで上位を占めた。

(8)「特に理想とする人物、愛好する作家、芸術家をあげなさい」に対し、両親10パーセント、赤川次郎1パーセントで、1992年では、両親

(Table 2) II. 自己関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)自分の性格等について満足していますか				
満足している	2 (2)	8 (3.9)	3 (2.0)	1 (1)
やや満足している	43 (43)	80 (39.0)	50 (34.0)	48 (44)
やや不満である	43 (43)	100 (48.8)	70 (47.6)	39 (36)
不満である	14 (14)	15 (7.3)	24 (16.3)	20 (19)
(2)自分の性格についてどのように考えていますか				
非常に外向性である	3 (3)	25 (12.2)	10 (6.8)	10 (9)
やや外向性である	23 (23)	57 (27.7)	39 (26.5)	22 (20)
普通	28 (28)	59 (28.8)	49 (33.3)	34 (31)
やや内向性である	42 (42)	60 (29.3)	45 (30.6)	37 (34)
非常に内向性である	4 (4)	2 (1.0)	4 (2.7)	8 (7)
(3)自分の話し好きについてどのように考えますか				
非常に話し好きである	19 (19)	60 (29.3)	20 (13.6)	26 (24)
やや話し好きである	25 (25)	71 (34.6)	60 (40.8)	34 (31)
普通	46 (46)	65 (31.7)	52 (35.4)	41 (38)
やや話し好きでない	8 (8)	7 (3.4)	15 (10.2)	5 (5)
話すことは非常に嫌いである	2 (2)	1 (0.5)	0 (0)	5 (5)
(4)自分の意志は強いと思いますか				
非常に強い	4 (4)	14 (6.8)	6 (4.1)	3 (3)
やや強い	37 (37)	76 (37.1)	43 (29.3)	35 (32)
普通	33 (33)	56 (27.3)	39 (26.5)	44 (41)
やや弱い	18 (18)	54 (26.3)	50 (34.0)	17 (16)
非常に弱い	8 (8)	3 (1.5)	9 (6.1)	9 (8)
(5)自分の人柄は魅力があると思いますか				
非常に魅力がある	4 (4)	4 (2.0)	2 (1.4)	1 (1)
やや魅力的である	37 (37)	32 (15.6)	24 (16.3)	20 (19)
普通	33 (33)	111 (54.1)	78 (53.1)	41 (38)
やや魅力が足りない	18 (18)	44 (21.5)	37 (25.2)	29 (27)
非常に魅力がない	8 (8)	12 (5.9)	6 (4.1)	17 (16)
(6)人間として他の人と比較してどのように思いますか				
非常に優越感をもっている	1 (1)	2 (1.0)	0 (0)	1 (1)
やや優越感をもっている	8 (8)	12 (5.9)	7 (4.8)	5 (5)
普通	64 (64)	122 (59.5)	104 (72.8)	68 (63)
やや劣等感をもっている	24 (24)	54 (26.3)	31 (21.1)	26 (24)
非常に劣等感をもっている	3 (3)	10 (4.9)	2 (1.4)	8 (7)
(7)進学、就職、結婚、等、重要な問題は誰に相談しますか				
母親	9 (9)	44 (21.0)	38 (25.9)	0 (-)
友達	90 (90)	63 (31.0)	43 (29.3)	67 (62)
父親	28 (28)	4 (2.0)	1 (0.7)	0 (-)
両親	0 (0)	53 (26.0)	46 (31.3)	44 (41)
先生	21 (21)	2 (0.9)	4 (2.7)	28 (27)
姉・兄	24 (24)	9 (4.4)	6 (4.1)	18 (16)
先輩	7 (7)	2 (0.9)	1 (0.7)	1 (1)
おばさん	- (-)	0 (0)	1 (0.7)	1 (1)
恋人	9 (9)	9 (4.0)	1 (0.7)	9 (8)
なし	2 (2)	- (-)	- (-)	- (-)
(8)特に理想とする人物、愛好する作家、芸術家をあげなさい				
オードリー・ヘップバーン	0 (0)	5 (2.4)	0 (0)	- (-)
ショパン	1 (1)	0 (0)	2 (1.3)	- (-)
アガサクリスティ	1 (1)	2 (0.9)	1 (0.7)	- (-)
赤川次郎	1 (1)	1 (0.5)	2 (1.3)	- (-)
両親	6 (6)	21 (10.2)	8 (5.4)	1 (1)
なし	65 (65)	- (-)	- (-)	11 (10)
吉田未和	2 (2)	- (-)	- (-)	- (-)
安室奈美恵	2 (2)	- (-)	- (-)	- (-)
宇多田ヒカル	2 (2)	- (-)	- (-)	- (-)
山口百恵	0 (0)	0 (0)	3 (2.0)	- (-)
その他	55 (55)	- (-)	- (-)	- (-)
(9)休日どのように過ごすことが多いですか(3つ以内あげる)				
スポーツ	10 (10)	2 (0.9)	23 (15.6)	3 (3)
映画・演劇等を観る	17 (17)	4 (1.9)	26 (17.7)	21 (19)
ラジオ・テレビ	53 (53)	27 (13.1)	72 (49.0)	52 (48)
読書	7 (7)	0 (0)	13 (8.8)	11 (10)
音楽	57 (57)	16 (7.8)	81 (55.1)	58 (54)
町をぶらつく	73 (73)	25 (12.1)	112 (76.2)	97 (90)
小旅行	1 (1)	0 (0)	6 (4.1)	1 (1)
勉強する	5 (5)	4 (1.9)	4 (2.7)	2 (2)
家族の者と共に過ごす	13 (13)	10 (4.9)	28 (19.0)	21 (19)
造形・美術	1 (1)	0 (0)	2 (1.4)	0 (-)
室内遊戯	3 (3)	4 (1.9)	1 (0.7)	8 (7)
けいこごと	1 (1)	1 (0.5)	1 (0.7)	0 (-)
何もせずぶらぶらしている	21 (21)	5 (2.4)	18 (12.2)	18 (17)
その他	28 (28)	5 (2.4)	34 (23.1)	23 (21)
アルバイト	16 (16)	15 (7.3)	0 (0)	16 (15)

10パーセント、1986年両親5パーセントであり、その年々により、流行歌手、女優等をあげるものが1パーセントであった。(安室奈美恵、宇多田ヒカル、山口百恵、他)1999年のデータでは、なし65パーセントに象徴されている。(9)「休日をもどのように過ごすことが多いですか」1位、街をぶらつく90パーセント、2位、音楽54パーセント、ラジオ、テレビ48パーセントであった。又、アルバイト15パーセントもある。1992年では1位ラジオ、テレビ13パーセント、町をぶらつく12パーセント、で、アルバイトは7パーセントであった。1986年では、町をぶらつく76パーセント、音楽55パーセント、ラジオ、テレビ49パーセントで、アルバイトは0パーセントであった。即ち、余暇は、受け身的であり、創造性に関する学習、訓練等はどの年にも皆無の状態であり、サウンド・ミュージック(聞いていないと落ちつかない)、バック・グラウンド・ミュージックの文化の中をただよっている姿(大衆文化の中で)が特徴づけられた。又、アルバイトは年々、パーセンテージが上昇

している。

Ⅲ. 友人・生活関係 (Table 3) (1)「現在の友人関係に満足していますか」に対し、満足しているが38パーセント、やや満足している42パーセントで80パーセントを占め良好である。1992年、1986年についても良好であった。(2)「どんなことでもうちあけて話せる友人がいますか」に対し、いる85パーセント。1992年75パーセント、1986年95パーセントと良好である。相談相手としては、同性、異性を問わずが21パーセントで1992年は19パーセント、1986年3パーセントと、湘南キャンパスに移ってから圧倒的に増加している。(3)「友達づき合いは深入りした方がよいか」に対し、いいえは73パーセント、1992年85パーセント、1986年88パーセントと、データでは下降を示している。(4)「ひまなとき、友人とどんな雑談をしますか」に対し、1位、恋愛や異性等について81パーセント、学業・職業、2位友人等について77パーセント、3位、趣味・娯楽等58パーセントであった。1992年、1986年でも同じ傾向を示している。

(Table 3)Ⅲ . 友人・生活関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)現在の友人関係について満足していますか。				
満足している	37 (37)	109 (53.2)	60 (40.8)	41 (38)
やや満足している	38 (38)	74 (36.1)	63 (42.0)	45 (42)
満足していない	18 (18)	14 (6.8)	20 (13.6)	15 (14)
わからない	7 (7)	6 (2.9)	4 (2.7)	4 (6)
(2)どんなことでも心のうちあけて話せる友人がいますか				
いる	87 (87)	154 (75.1)	139 (94.6)	92 (85)
同性	61 (61)	107 (52.2)	133 (90.5)	55 (60)
異性	1 (1)	3 (1.0)	2 (1.4)	5 (5)
両方	26 (26)	42 (18.5)	4 (2.7)	23 (21)
いない	13 (13)	20 (9.8)	7 (4.8)	16 (15)
(3)友達づきあいは深入りしない方がよいですか				
はい	24 (24)	27 (13.2)	17 (11.6)	29 (27)
いいえ	76 (76)	175 (85.4)	130 (88.4)	79 (73)
(4)閑なとき友人とどんな雑談をしますか (3つ以内)				
政治・経済等について	0 (0)	1 (0.5)	1 (0.7)	0 (-)
衣・食・住等について	33 (33)	60 (29.2)	56 (38.1)	29 (27)
学業・職業・友人等について	70 (70)	170 (82.6)	85 (57.8)	83 (77)
将来の希望	19 (19)	57 (27.8)	41 (27.9)	34 (31)
恋愛や異性等について	86 (86)	179 (87.0)	119 (81.0)	88 (81)
人生・哲学論	2 (2)	14 (6.8)	3 (2.0)	1 (1)
趣味・娯楽等	72 (72)	119 (58.5)	100 (68.0)	63 (58)
その他	8 (8)	7 (3.4)	3 (2.0)	8 (7)

(Table 4) IV. 家庭関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999) %	N=205 (1992) %	N=147 (1986) %	%
(1)現在の家庭に係に満足していますか。				
満足している	52 (52)	102 (49.8)	69 (47.0)	53 (49)
やや満足している	32 (32)	69 (33.7)	51 (34.7)	30 (28)
や不満足である	14 (14)	24 (11.7)	23 (15.6)	16 (15)
不満である	2 (2)	6 (2.9)	3 (2.0)	9 (8)
(2)家族についてどのように考えますか				
○父の愛情				
満足	39 (39)	(Positive)	厳しい中にも人間の本当の愛情を教えてくれる	79 (68)
不満足	16 (16)			19 (18)
普通	10 (10)	(Negative)	もう少し優しく話して欲しい	10 (9)
○母の愛情				
満足	49 (49)	(Positive)	よく理解してくれ、愛してくれて優しい	81 (75)
不満足	11 (11)			5 (5)
普通	9 (9)	(Negative)	神経質で口うるさい	22 (20)
○その他の家族				
普通	64 (64)	(Positive)	姉妹として理解し合っている	34 (31)
不満足	7 (7)			74 (69)
普通	9 (9)	(Negative)	遠くから見ていて一寸厭	0 (-)
○全体の人間関係				
満足	47 (47)	(Positive)	心をわって何でも話せる	55 (51)
不満足	10 (10)			44 (41)
普通	8 (8)	(Negative)	ギクシャクしてまとまっていない	9 (9)
(3)親の考え方や生き方のくいちがひがありますか				
ある	28 (28)	49 (23.9)	36 (24.5)	34 (31)
いくらあるが苦にしない	62 (62)	131 (63.9)	101 (68.7)	66 (61)
ない	10 (10)	25 (12.2)	10 (6.8)	8 (7)
(4)隣近所の家とうちとけた交流がありますか				
ある	55 (55)	134 (65.4)	110 (74.8)	60 (56)
ない	45 (45)	71 (34.6)	37 (25.2)	48 (44)
(5)家庭の収入は充分と思いますか				
充分	58 (58)	137 (66.8)	87 (59.2)	63 (58)
不充分	42 (42)	67 (32.7)	60 (40.8)	45 (42)
(6)お母さんをどのようにしてあげたいと思いますか				
もっと趣味や楽しみを持ってもらいたい	33 (33)	137 (22.2)	109 (74.1)	71 (66)
家族みながもっと母を理解して欲しい	11 (11)	71 (11.5)	42 (28.6)	48 (44)
経済的に、もっと独立させてあげたい	6 (6)	57 (9.3)	32 (21.8)	26 (24)
夫や子どもに頼るだけでなく、自分自身の生きる目的を持たせてあげたい	9 (9)	50 (8.6)	42 (28.6)	27 (25)
家ばかりにこもっていないで、芸術・政治・社会問題など外のことに関心を持ってほしい	0 (0)	48 (7.8)	25 (17.0)	10 (9)
母が年齢をとってからも、もっと一緒にいてあげたい	33 (33)	127 (30.6)	93 (63.3)	3 (3)
無回答	8 (8)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
(7)青年期に両親、その他に反抗を感じましたか				
強い反抗を感じた	37 (37)	56 (27.3)	41 (27.9)	39 (36)
やや反抗を感じた	38 (38)	99 (48.8)	82 (55.8)	48 (44)
あまり反抗的でなかった	25 (25)	43 (21.0)	23 (15.6)	15 (14)
全く反抗を感じなかった	0 (0)	6 (2.9)	1 (4.2)	6 (6)

IV. 家庭関係 (Table 4) (1)「現在の家庭に係に満足していますか」に対し、満足49パーセント、やや満足28パーセントで、約70パーセントは、問題はみられない。1992年では、満足50パーセント、やや満足34パーセント。1986年では、満足47パーセント、やや満足35パーセントであり、21世紀のデータと比較すると、現在は約13パーセント満足度は下降している。(2)「家族

についてどのように考えますか」に対し、父の愛情は、厳しいなかにも人間の本当の愛情を教えてくれる68パーセントで、母の愛情は、満足75パーセント、その他の家族で満足は31パーセント、不満足69パーセント、家族全体の人間関係の満足は51パーセント、不満足は41パーセントであった。2001年のデータと、1999年のデータとの比較になるが、父母

との関係は、2年前のデーターより良好になるが、その他の家族（兄妹、祖父母等との）関係は良好さが減ずる傾向をみた。(3)「親の考え方や生き方のくいちがひがありますか」に対し、いくらかあるが気にしない61パーセント、ない7パーセントであった。この項目の年々の推移は、序々に考え方のずれの（約10パーセント）増加がみられた。(4)隣近所の家とうちとけた交流がありますか」に対し、あるの回答は56パーセント。1992年は65パーセント。1986年は75パーセントで、下降の傾向を示している。希薄になる近隣との交流は、今後も続くことを予測される。

(5)「家庭の収入は充分と思いますか」に対し、充分である59パーセントであった。1992年では、67パーセント。1986年では、59パーセントで年による大差はみられない。(6)「お母さんをどのようにしてあげたいと思いますか」に対し、1位、「もっと趣味や楽しみを持ってもらいたい」66パーセントで、2位は、家族みながもっと母を理解して欲しい44パーセント。3位は、夫や子どもに頼るだけでなく、自分自身の生きる目的を持たせてあげたい25パーセントであった。1992年は1位、母が年齢をとってからも、もっと一緒にいてあげたい31パーセント。2位、もっと趣味や楽しみを持ってもらいたい22パーセント。3位、家族みながもっと母を理解して欲しい12パーセントで、1986年では1位、もっと趣味や楽しみを持ってもらいたい74パーセント、2位、家族みながもっと母を理解して欲しい、夫や子どもに頼るだけでなく、自分自身の生きる目的を持たせてあげたい29パーセントであった。又、母が年齢をとってからも、もっと一緒にいてあげたい63パーセントであったが、年々激減して、21世紀のデーターでは3パーセントに下降している。母親に対する思いやりを持ちながらも、独立（自律）して欲しい。又、いつも一緒にいてあげたいとい

う意識は失われる寸前である。（「娘は、老後の世話をしてくれる」は、神話と化したようである。）(7)「青年期に両親、その他に反抗を感じましたか」に対し、やや反抗を感じた44パーセント。強い反抗を感じた36パーセントであった。1992年では、やや反抗を感じた49パーセント、強い反抗を感じた27パーセントであり、1986年では、やや反抗を感じた56パーセント、強い反抗を感じた28パーセントであった。即ち、推移という状態はみられない。

V. 学校関係 (Table 5) (1)「今までの学校生活に満足していますか」に対し、やや満足は52パーセント、満足している20パーセントで、約72パーセントのものは、満足の状態である。1992年では、やや満足60パーセント、満足しているは、22パーセントであり、1986年では、やや満足は58パーセントで満足しているは10パーセントであった。1999年のデーターでも、やや満足16パーセント、満足である55パーセントで、年による推移はみられなかった。(2)「進学するのは、次の項目のいずれが主な理由ですか」に対し、1位は、将来の職業生活や結婚生活を有利にするため81パーセント、2位は、教養を身につけるため75パーセント、3位は、他の人達が進学するので自分もしたい31パーセントであった。1992では、1位、教養を身につけるため50パーセント、2位は、将来の職業生活や結婚生活を有利にするため36パーセント、3位は、親が上級学校へ進学した方が将来得であるとすすめたから4パーセントであり、1986年では、1位、教養を身につけるため92パーセント、2位、他の人達が進学するので自分もしたい45パーセント、3位は、親が上級学校へ進学した方が将来得であるとすすめたから25パーセントであった。即ち、進学する理由に大きな推移がみられた。2001年に示した1位の理由、将来の職業生活や結婚生活を有利にするためには、1986年では皆無であった。年々実利的な目標

(Table 5) V. 学校関係

N=108

-2001-

項 目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)今までの学校生活に満足していますか				
満足している	16 (16)	46 (22.4)	14 (9.5)	22 (20)
やや満足	55 (55)	122 (59.5)	85 (57.8)	56 (52)
やや不満	20 (20)	30 (14.6)	41 (27.9)	23 (21)
不 満	9 (9)	3 (1.5)	7 (4.8)	7 (6)
(2)進学するのは次の項目のいずれが主な理由ですか				
将来の職業生活や結婚生活を有利にするため	52 (52)	74 (36.1)	- (-)	87 (81)
教養を身につけるため	35 (35)	103 (50.2)	135 (91.8)	81 (75)
他の人達が進学するので自分もしたい	3 (3)	5 (0.2)	66 (44.9)	33 (31)
親が上級学校へ進学した方が将来得であるとすすめたから	7 (7)	8 (3.9)	36 (24.5)	8 (6)
進学は不必要である	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
若い時から働いた方がよい	0 (0)	4 (2.0)	0 (0)	4 (4)
進学したいがアルバイトしなければならない	0 (0)	0 (0)	1 (0.7)	5 (5)
その他	3 (3)	5 (0.2)	8 (5.4)	17 (16)
(3)学校は就職や結婚に有利になる手段となっていますか				
は い	77 (77)	147 (71.7)	137 (93.2)	77 (71)
いいえ	23 (23)	54 (26.3)	10 (6.8)	31 (29)
(4)今の学校は試験の成績で優劣を決めて人間性を無視していますか				
は い	75 (75)	157 (76.6)	106 (72.1)	65 (61)
いいえ	25 (25)	47 (22.9)	41 (27.9)	43 (40)
(5)学校では社会で役立つ技術や知識を得られないですか				
は い	40 (40)	85 (41.5)	86 (58.5)	30 (28)
いいえ	60 (60)	117 (57.1)	61 (41.5)	78 (72)
(6)学校では学生・生徒の意見が反映されていないですか				
は い	63 (63)	107 (52.2)	86 (58.5)	47 (44)
いいえ	37 (37)	95 (46.3)	61 (41.5)	61 (56)
(7)現代は能力よりも卒業した学校により、就職・将来が決まる社会であるのですか				
は い	70 (70)	125 (61.0)	84 (57.1)	58 (54)
いいえ	30 (30)	80 (39.0)	63 (42.0)	50 (46)

を持って進学するという推移が浮き刻りにされた。(3)「学校は、就職や結婚に有利になる手段となっていますか」に対し、はい71パーセントであり、1992年、1986年、そして1999年のデータにも差はみられない。(4)「今の学校は試験の成績で優劣を決めて人間性を無視していますか」に対し、はい61パーセントであった。1992年は77パーセント、1986年72パーセント、又、1999年のデータでも75パーセントであったが、21世紀のデータでは、約10パーセント下降し、試験のみで優劣は決めていないという回答も増加してきた。この傾向は、以後増加するであろうことが予測される。(5)「学校では、社会で役立つ技術や知識を得られないですか」に対し、いいえの回答は72パーセントであった。1992年では、いいえ57パーセント、1986年42パーセントであり、又、1999年のデータは60パーセントであった。この回答は、年々学校教育をポジティブに視る傾向が強ま

り、良好な意識の推移とみるのが、妥当であろう。(6)「学校では、学生・生徒の意見が反映されていないですか」に対し、いいえの回答は56パーセントで、1992年46パーセント、1986年46パーセントであった。即ち、どちらとも言えないという反応をみたことになる。(7)「現代は、能力よりも卒業した学校により、就職・将来が決まる社会ですか」に対し、はいの回答は54パーセントであった。1992年では61パーセントであり、1986年では57パーセントで大差はみられなかった。

VI. 国家・社会生活関係 (Table 6)

(1)「わが国に生まれ、わが国で生活することに満足していますか」に対し、満足している46パーセント、やや満足45パーセントで、約91パーセントのものは、満足しているようである。1992年では満足53パーセント、やや満足38パーセントで約91パーセントが満足しているようで、1986年では、満足は61パーセント、

(Table 6) VI . 国家・社会生活関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)わが国に生まれ、わが国で生活することに満足していますか				
満足している	55 (55)	109 (53.2)	90 (61.2)	50 (46)
やや満足	35 (35)	77 (38.0)	48 (32.7)	49 (45)
やや不満	8 (8)	13 (6.3)	6 (4.1)	8 (7)
不満	2 (2)	1 (0.5)	1 (0.7)	1 (1)
(2)わが国にとって次のどれが必要ですか				
伝統や文化を大切にすること	14 (14)	17 (8.5)	57 (38.8)	47 (44)
産業を奨励し、経済生活を豊かにする	15 (15)	5 (2.4)	37 (25.2)	38 (35)
社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること	23 (23)	41 (20.0)	87 (59.2)	55 (51)
平和な社会を築くこと	26 (26)	54 (26.3)	116 (78.9)	79 (73)
自然を大切にすること	20 (20)	74 (36.1)	79 (53.7)	78 (72)
国際社会で尊敬されること	0 (0)	9 (4.4)	32 (21.8)	12 (11)
その他	2 (2)	5 (2.4)	2 (1.4)	7 (6)
(3)「道路など公共事業のため立ち退きさせられる人達は、しばしば反対運動を起こします。その反対運動について権利の主張として当然だ 公共の福祉のため不当だと思う その他	74 (74) 9 (9) 15 (15)	166 (81.0) 17 (8.3) 11 (5.4)	99 (67.3) 22 (15.0) 24 (16.3)	82 (76) 10 (9) 16 (15)
(4)「国全体の利益に重点が置かれすぎて、国民ひとりひとりがなおざりにされている」と思いますか				
はい	77 (77)	155 (75.6)	82 (55.8)	78 (72)
いいえ	23 (23)	46 (22.4)	62 (42.2)	30 (28)
(5)「国民ののぞむことと反対の政治が行われていることがある」と思いますか				
はい	87 (87)	193 (94.1)	82 (87.1)	99 (91)
いいえ	13 (13)	46 (22.4)	62 (42.2)	9 (8)
(6)「人間の信頼より規則や法律に縛られている社会である」と思いますか				
はい	79 (79)	114 (55.6)	88 (59.9)	71 (66)
いいえ	21 (21)	90 (43.9)	59 (40.1)	37 (34)
(7)「お金さえあれば何でもできる物質万能の社会になっている」と思いますか				
はい	89 (89)	156 (76.1)	113 (76.9)	67 (62)
いいえ	11 (11)	46 (22.0)	34 (23.1)	41 (38)
(8)「人間の将来は親の職業や家柄によって事実上決まっている」と思いますか				
はい	32 (32)	88 (42.0)	77 (52.4)	48 (44)
いいえ	68 (68)	113 (55.1)	69 (46.9)	60 (56)
(9)「大人は現状維持を大切にすぎている」と思いますか				
はい	56 (56)	113 (55.1)	99 (67.3)	63 (58)
いいえ	44 (44)	89 (43.4)	48 (32.7)	45 (42)
(10)「老人が気の毒な社会だ」と思いますか				
はい	57 (57)	86 (42.0)	78 (53.1)	47 (44)
いいえ	43 (43)	116 (56.6)	69 (46.9)	61 (56)
(11)「国は国民の権利や福祉を守っている」と思いますか				
充分、守っている	2 (2)	1 (0.4)	1 (0.7)	0 (-)
やや充分である	28 (28)	50 (24.4)	60 (40.8)	35 (32)
あまり充分でない	64 (64)	139 (67.8)	84 (57.1)	69 (64)
全くだめである	6 (6)	15 (7.3)	2 (1.4)	4 (4)
(12)社会に対して不満をもったと仮定するとどんな態度が良いと思いますか 選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な態度はとらない	49 (49)	123 (60.0)	91 (61.9)	42 (39)
(その理由は)				
個人力では及ばないと問題がある	28 (28)	91 (43.9)	76 (51.7)	30 (28)
社会のことは誰か適当な人がやればよい	0 (0)	2 (0.9)	2 (1.4)	2 (2)
自分にとって他にもっと大切なことがある	6 (6)	9 (4.4)	4 (2.7)	4 (4)
合法的範囲で積極的な行動に訴える	11 (11)	40 (19.5)	29 (19.7)	23 (21)
場合によっては暴力など非合法的な手段にも訴える	4 (4)	0 (0)	1 (0.7)	3 (3)
あまり関心がなく何もやらない	35 (35)	38 (18.5)	26 (17.7)	40 (37)

やや満足は33パーセントで94パーセントが満足しているようで、大差はみられなかった。(2)「わが国にとって次のどれが必要ですか」に対し、1位は、平和な社会を築くこと73パーセント、2位、自然を大切にすること72パーセント、3位、社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること51パーセント、次いで伝統や文化を大切にすること44パーセントであった。1992年では、1位、自然を大切にすること36パーセント、2位、平和な社会を築くこと26パーセント、3位は、社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること20パーセントであった。1986年では、1位は平和な社会を築くこと78パーセント、2位は、社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること59パーセント、3位は自然を大切にすること54パーセントであった。又、1999年のデータでは、1位、平和な社会を築くこと26パーセント、2位、社会保障に力を入れ、ゆったりした生活にすること23パーセント、3位、自然を大切にすること20パーセントであった。20世紀末から21世紀を迎え、自然の破壊による生命体の危機を防止しようという意識の強さがみられ、平和な社会、又、社会保障という態度が回答の中にみられる。又、伝統、文化も大切に守りたいという意識もみられる。(3)「道路など公共事業のため、立ち退きさせられる人達は、しばしば反対運動を起こします。その反対運動について」権利の主張として当然だ76パーセントであった。1992年では81パーセント。1986年では67パーセントである。又、1999年のデータでは74パーセントで大差はみられない。(4)「国全体の利益に重点が置かれすぎて、国民ひとりひとりがなおざりにされていると思いますか」に対し、はい72パーセント。1992年では、76パーセント、1986年では56パーセントであり、1992年と1986年の間に、約20パーセントの差がみられ、意識の変化が明瞭にみられた

ことになる。(5)「国民ののぞむことと反対の政治が行われていることがありますか」に対し、はい92パーセントであった。1992年では94パーセント、1986年では87パーセントであった。又、1999年のデータでは87パーセントであった。大差はみられなかった。(6)「人間の信頼より、規則や法律で縛られている社会であると思いますか」に対し、はいは60パーセントであった。1992年では56パーセント、1986年では60パーセント、又、1999年のデータでは79パーセントであった。即ち、明瞭な差はみられない。(7)「お金さえあれば何でもできる物質万能の社会になっていると思いますか」に対し、はいは62パーセントであった。1992年は76パーセント、1986年では77パーセントで、20世紀になり減少の傾向がみられた。即ち、物質万能の社会ではないとの回答である。(8)「人間の将来は、親の職業や家柄によって事実上決まっていると思いますか」に対し、いいえは56パーセントであった。1992年では55パーセント、1986年では47パーセントであった。又、1998年では68パーセントであり、1998年をピークに、20世紀には下降の現象がみられた。(9)「大人は、現状維持を大切にしていますか」に対し、はいとの回答は、58パーセントであった。1992年では55パーセント、1986年では67パーセントであった。又、1999年では56パーセントで1986年をピークに、1992年で急激に下降し、又、ゆるやかな上昇の傾向がみられた。(10)「老人が気の毒な社会だと思いませんか」に対し、いいえ56パーセントであった。1992年では57パーセント、1986年は47パーセントであり、1999年は43パーセントで、2峰性の傾向をみたことになる。(11)「国は、国民の権利や福祉を守っていると思いますか」に対し、あまり充分でない63パーセントであり、充分は皆無であった。1992年はあまり充分でない68パーセント、

(Table 7) VII . 未来関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)「人類の英知で世界大戦は、さけられるだろう」と思いますか				
はい	55 (55)	141 (68.8)	90 (61.2)	68 (63)
いいえ	45 (45)	63 (30.7)	57 (38.8)	40 (37)
(2)「人類の英知で地球の汚染や資源の減失はさけられるだろう」と思いますか				
はい	48 (48)	112 (54.6)	47 (32.0)	53 (49)
いいえ	52 (52)	91 (44.4)	100 (68.0)	55 (51)
(3)「30年後には、もっと住みよい社会になるであろう」と思いますか				
はい	28 (28)	46 (22.4)	38 (25.9)	29 (27)
いいえ	72 (72)	155 (75.6)	109 (74.1)	79 (73)

1986年は57パーセントであった。又、1999年では64パーセントで、1992年68パーセントを頂点とし、1999年、2001年と64パーセントに下り一定となった。即ち「国民の権利、福祉」は、充分でないとの回答が過半数であった。(12)「社会に対して不満をもったと仮定すると、どんな態度が良いと思いますか」に対し、選挙権を行使するくらいで、それ以上、積極的な態度はとらない39パーセントであった。理由は、あまり関心がないので何もやらない37パーセント、次いで、個人の力では及ばないところに問題がある28パーセント。又、合法的範囲で、積極的な行動に訴える21パーセントであった。1992年では、選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な態度はとらない60パーセントであった。理由は、個人の力では及ばないところに問題がある43パーセント。理由は合法的範囲で積極的な行動に訴える20パーセント、次いで、あまり関心がなく、何もやらない19パーセントであった。1986年では、選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な態度はとらない62パーセントであった。理由は、個人の力では及ばないところに問題がある52パーセントであった。又、1999年では、選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な態度はとらないは、49パーセントであった。即ち、1986年の62パーセントを頂点に、1992年60パーセント、1999年、2001年と下降の傾向をたどっている。又、あまり関心

がないとの回答は1986年の18パーセントから順次1992年の19パーセント、1999年35パーセント、2001年の37パーセントと上昇の傾向にあった。

VII. 未来関係 (Table 7) (1)「人類の英知で、世界大戦は、さけられるだろうと思いますか」に対し、はい63パーセントであった。1992年では69パーセント、1986年では61パーセントで、大差はみられない。(2)「人類の英知で、地球の汚染や、資源の減失はさけられますか」に対し、はいは49パーセントであった。1992年では55パーセント、1986年では32パーセントであった。又、1999年では48パーセントであった。即ち、1986年で最も悲観的見解を示し、以降、50パーセント前後に上昇している。(3)「30年後には、もっと住みよい社会になるであろうと思いますか」に対し、いいえ73パーセントであった。1992年では76パーセント、1986年では74パーセント、又、1999年では72パーセントで変化はみられなく、「30年後には、住みよい社会にはなっていない」との回答を得たことになる。

VIII. 異性関係 (Table 8) (1)「結婚については見合結婚と恋愛結婚と、どちらが望ましいですか」に対し、恋愛結婚71パーセント、どちらでもよい19パーセント、見合結婚1パーセントであった。1992年では、恋愛結婚75パーセント、どちらでもよい24パーセント、見合結婚は皆無であった。1986年では、恋愛結婚65パーセント、どちらでもよい29パーセント、

(Table 8) Ⅷ. 異性関係

N=108

-2001-

項目	N=100 (1999)(%)	N=205 (1992)(%)	N=147 (1986)(%)	(%)
(1)結婚については見合結婚と恋愛結婚と、どちらが望ましいですか				
見合結婚	0 (0)	0 (0)	10 (6.8)	1 (1)
恋愛結婚	87 (87)	154 (75.1)	95 (64.6)	77 (71)
どちらでもよい	13 (13)	49 (23.9)	42 (28.6)	20 (19)
(2)結婚相手を選ぶとき、次のどれを最も重要としますか(3つ以内)				
健康	29 (29)	14 (6.8)	58 (39.5)	29 (27)
愛情	85 (85)	87 (42.4)	116 (78.9)	87 (81)
知能(学業成績等)	1 (1)	0 (0)	18 (12.2)	1 (1)
性格	92 (92)	88 (42.9)	107 (72.2)	91 (84)
容姿	24 (24)	0 (0)	10 (6.8)	13 (12)
経済(生活能力)	54 (54)	16 (7.8)	102 (69.4)	70 (65)
職業	4 (4)	0 (0)	2 (1.4)	6 (6)
家庭環境	7 (7)	0 (0)	6 (4.1)	6 (6)
純潔	1 (1)	0 (0)	2 (1.4)	4 (4)
その他	1 (1)	0 (0)	1 (0.7)	4 (4)
(3)性的変化(初潮)について、どんな感じを持ちましたか				
うれしかった	14 (14)	9 (4.4)	18 (12.2)	7 (6)
いやな感じ	37 (37)	50 (24.3)	81 (55.1)	50 (46)
恥ずかしかった	56 (56)	45 (22.0)	87 (59.2)	48 (44)
不安であった	48 (48)	32 (15.6)	66 (44.9)	43 (40)
予期したものが生じた感じ	24 (24)	33 (16.1)	47 (32.0)	28 (26)
大人になった感じ	36 (36)	19 (9.3)	46 (31.3)	38 (35)
誰かにうちあげたい感じ	9 (9)	3 (1.5)	9 (6.1)	5 (5)
その他	8 (8)	13 (6.3)	3 (2.0)	9 (8)
(4)性的知識を主として、どんな経路で得ましたか(3つ以内)				
家庭から	64 (64)	19 (9.0)	27 (18.4)	30 (28)
学校で	95 (95)	144 (70.0)	134 (91.2)	99 (92)
図書	7 (7)	5 (2.0)	15 (10.2)	5 (5)
雑誌	55 (55)	23 (11.0)	121 (82.3)	57 (53)
テレビ・映画等	51 (51)	9 (4.0)	71 (48.3)	47 (44)
その他	6 (6)	5 (2.0)	3 (2.0)	5 (5)
(5)現在、特に愛情を感じている異性がありますか				
いる	49 (49)	114 (55.6)	75 (51.0)	33 (31)
いない	41 (41)	78 (38.0)	68 (46.3)	65 (60)
その他	10 (10)	7 (3.4)	3 (2.0)	0 (-)
(6)結婚前の性的関係を認めますか				
避けるべきである	2 (2)	17 (8.3)	33 (22.4)	4 (4)
愛情があればいい	82 (82)	142 (69.3)	72 (49.0)	87 (81)
愛情がなくてもいい	0 (0)	3 (1.5)	1 (0.7)	0 (-)
わからない	16 (16)	41 (20.0)	41 (27.0)	17 (16)
(7)現在純潔ですか				
純潔である	62 (62)	166 (78.0)	140 (95.2)	67 (62)
純潔でない	38 (38)	36 (17.6)	7 (4.8)	41 (38)
(8)結婚した場合、相手の家族との同居について				
同居してよい	7 (7)	25 (12.2)	16 (10.9)	7 (6)
別居したい	60 (60)	112 (54.6)	80 (54.4)	90 (85)
どちらでもよい	33 (33)	65 (31.7)	51 (34.7)	31 (29)
(9)同性愛を感じた経験がありますか				
強い同性愛をもち、異性への興味が無い	4 (4)	4 (2.0)	3 (2.0)	14 (13)
強い同性愛をもつが、異性への愛情は別である	4 (4)	15 (7.3)	10 (6.8)	17 (16)
軽い同性愛をもった	5 (5)	27 (13.2)	20 (13.6)	7 (6)
その他	87 (87)	154 (75.0)	111 (75.5)	70 (65)
(10)結婚する場合、相手の純潔について、どのように考えますか				
絶対に純潔を求める	2 (2)	8 (3.9)	7 (4.8)	5 (5)
純潔であることを希望するが拘泥しない	25 (25)	69 (33.7)	53 (36.1)	31 (29)
純潔についてほとんど問題にしない	73 (73)	125 (61.0)	87 (59.2)	72 (67)

見合結婚7パーセントであった。1999年では恋愛結婚87パーセント、どちらでもよい13パーセント、見合結婚は皆無であった。1999年の恋愛結婚87パーセントを頂点とし、21世紀には、やや75パーセントと12パーセントの下降の傾向がみられた。

(2)結婚相手を選ぶとき、次のどれを最も重要としますか」に対し、1位、性格84パーセント、2位、愛情81パーセント、3位、経済65パーセント、次いで健康27パーセントをあげている。1992年では、1位、性格43パーセント、2位、愛情42パーセント、3位、経済8パーセント、次いで健康7パーセントの4項目をあげ、他の項目は皆無であった。1986年では、1位、愛情79パーセント、2位、性格72パーセント、3位、経済69パーセント、次いで健康40パーセントであった。1999年での1位は、性格92パーセント、2位は、愛情85パーセント、3位、経済54パーセント、次いで健康29パーセントであり、又、容姿24パーセントも特徴づけられる。即ち、1999年を頂点にし、2001年でも愛情よりも性格が選ばれている。又、経済力も、健康よりも強く志向されているのである。(3)「性的変化(初潮)について、どんな感じを持ちましたか」に対し、1位、いやな感じ46パーセント、2位、恥ずかしかった44パーセント、3位、不安であった40パーセントとNegativeな反応が多く、次いで、大人になった感じ35パーセント、予期したものが生じた感じ26パーセントであった。1992年では、1位、いやな感じ24パーセント、2位、恥ずかしかった22パーセント、3位、予期したものが生じた感じ16パーセントであった。1986年では、1位、恥ずかしかった59パーセント、2位、いやな感じ55パーセント、3位、不安であった45パーセントであった。(4)「性的知識を主として、どんな経路で得ましたか」に対し、1位は、学校で92パーセント、2位は、

雑誌53パーセント、3位は、テレビ・映画等44パーセントであった。1992年では、1位は、学校で70パーセント、2位、雑誌11パーセント、3位は、家庭から9パーセントであった。1986年では、1位、学校で91パーセント、2位、雑誌53パーセント、3位、テレビ・映画等48パーセントであった。(5)「現在、特に愛情を感じている異性がいいますか」に対し、いない60パーセント、いる31パーセントであった。1992年では、いる56パーセント、いない38パーセントであり、1986年では、いる51パーセント、いない46パーセントであった。21世紀のデータでは、以前より、愛情を感じている異性があると回答したものは約20パーセント減となっている。(6)「結婚前の性的関係を認めますか」に対し、愛情があればいい81パーセント、わからない16パーセント、避けるべくであるは4パーセントであった。1992年では、愛情があればいい69パーセント、わからない20パーセント、避けるべきである8パーセントであった。1986年では、愛情があればいい49パーセント、避けるべきである22パーセント、わからない27パーセントであった。又、1999年のデータは2001年のものとの大差はなく、愛情があればいい82パーセント、わからない16パーセント、避けるべきである2パーセントであり、社会・文化的影響が鮮明に結婚前の性的関係についての大きな意識の変化がみられた。(7)「現在純潔ですか」に対し、純潔であるの回答は62パーセントである。1992年では78パーセント、1986年では95パーセント、又、1999年のデータでは、62パーセントであった。即ち、1986年から急激に減少しているという結果を得たことになる。(8)「結婚した場合、相手の家族との同居について」に対し、別居したい65パーセント、どちらでもよい29パーセントをはるかに上廻っている。1992年では別居したい55パーセント、どちらでもよい32パーセント、又、同居してよ

い12パーセントであった。1986年では、別居したい54パーセント、どちらでもよい35パーセント、同居してもよい11パーセントであった。別居を望む回答が1999年から急激に約10パーセント増加したことになる。

(9)「同性愛を感じた経験がありますか」に対して、35パーセントのものが経験があり、異性への興味が無いも13パーセントをみた。又、強い同性愛をもつが、異性への愛情は別である16パーセントもある。1992年では、22パーセント、1986年では22パーセント、又、1999年では13パーセントで、2001年での増加は、社会・文化的結果とみることもできるであろう。(10)「結婚する場合、相手の純潔について、どのように考えますか」に対し、純潔についてほとんど問題にしない67パーセント、純潔であることを希望するが、拘泥しない29パーセント、絶対に純潔を求める5パーセントであった。1992年では、純潔であることを希望するが、拘泥しない34パーセント、純潔についてほとんど問題にしない34パーセント、絶対に純潔を求める3パーセントである。1986年では、純潔についてほとんど問題にしない59パーセント、純潔であることを希望するが、拘泥しない36パーセント、絶対に純潔を求める5パーセントであった。即ち、1986年、1992年間では大差は認められず、1999年、2001年での大差もなく、相手の純潔については、ほとんど拘泥しないという意識がみられた。

結論；

I. 人生観；女子学生は、「人生では、他人との誠実や愛」を求め、1986年からのデータと大差はなく、宗教に対しては、関心がなく、人間の本性は、善か悪か分らないと回答し、自信に欠け、「今の社会では、あくせく働くより、のんびりすることが大切」とし、混沌とした未来に対し、経済的不安感もあり、「お金は使うより、貯金も大切だ」と感じている。推移はみられない。

II. 自己関係；「自分の性格について」は、やや不満である。と要求水準が高く、厳しく自己を見つめているようである。性格は中庸でありたい傾向を示しているが、反面、自己への満足感も2001年のデータでは増加している。自己が魅力的であるは2001年では下降している。又、「理想の人物、作家、芸術家」には、全く関心を示さず、自己の身の辺の辺で、狭く生活しているようである。余暇は、町をぶらつく、音楽を楽しむという、大衆文化(メディア)の中を、受け身的に、ただよっているとの回答であった。又、アルバイトも上昇の傾向がみられた。

III. 友人・生活関係；友人関係では満足し、良好である。異性の友人を相談相手として選んでいるものも1992年より増加の傾向を示している。恋愛、異性等についての雑談もあり、又、学業、職業、趣味、娯楽等と多岐に渡っている。

IV. 家庭関係；現在の家庭への満足感があり、父母の愛についても70パーセント台で満足しているようである。しかし、近隣との交流は、粗で、対人関係は薄くなりつつある環境で生活しているようで閉鎖的である。又、従来の「母が年齢をとってからも一緒にいてあげたい」は年々下降を示している。

V. 学校関係；現在までの学校には72パーセントのものが満足と回答し、従来の職業生活や結婚生活を有利にするとの意識がみられた。実利的な目標を持って進学する姿が浮き刻りにされたようである。

VI. 国家・社会生活関係；わが国に生まれ、わが国で生活することに満足は、約91パーセントのものにみられた。平和な社会を築き、自然を大切にし、社会保障に力を入れ、ゆったりした生活を理想としている回答が得られた。しかし、国民の望む政治が行われていないとの回答も92パーセントにみられた。又、国民の権利、福祉は充分でないとの回答も過半数にみられた。

Ⅶ. 未来関係 ; 「人類の英知で世界大戦はさげられるだろう」は過半数のものが、はいと回答し、「地球の汚染や資源の減失は、さげられるであろう」も50パーセント前後にみられたが「30年後社会」は住みにくくなるとの見かたも72パーセントにみられた。

Ⅷ. 異性関係 ; 結婚については恋愛結婚を望ましい71パーセントにみられ、結婚相手には、性格、愛情、経済、次いで健康の項目があげられた。性的変化(初潮)については、いやな感じ、恥ずかしい、不安と、否定的な反応がみられた。性的知識は学校で、次いで雑誌、テレビ、映画の順であった。「現在愛情を感じている異性」は「いる」31パーセントで、1986年以来、最も少ない回答であった。結婚前の性的関係は「愛情があればよい」81パーセントの回答で、前報告からの推移はみられなかった。又、「現在純潔である」との回答は62パーセントで1986年からは急激に減少している。又、同性愛の経験についても序々に増加し、35パーセントに至っている。結婚相手の純潔については、ほとんど問題にしないが67パーセントであった。即ち、意識の推移はみられなかった。

21世紀頭初社会・文化的背景の中での「環境へ適応する為の姿」とみるべきであろう。

文献 ;

- 1) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識の推移(第3報) ; 文教大学女子短期大学部研究紀要第43集、1999。
- 2) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識の推移 ; 日本性格心理学会第2回大会発表論文集、日本性格心理学会、1993。
- 3) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識の推移、文教大学女子短期大学部研究紀要第37集、1993。
- 4) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識について ; 日本教育心理学会第28回総会発表論文集、日本教育心理学会、1986。
- 5) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識に関する調査結果(第Ⅱ報) ; 家政研究第17号、文教大学女子短期大学部家政科、1986。
- 6) 野村晶子、女子学生の生活態度・意識に関する調査結果 ; 家政研究第16号、文教大学女子短期大学部家政科、1985。
- 7) 駒崎勉 ; 大学生の性行動に関する一考察 ; 日本教育心理学会第28回総会発表論文集、日本教育心理学会、1986。